

シャント狭窄に対するバルーン拡張群と薬剤溶出性バルーン群の 比較に関する検討について

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】

シャント狭窄に対して、どのような症例に薬剤溶出性バルーンを使用すれば効果的なのか、もしくは効果がないのかという使い分けを検討することを目的とします。

【対象】

2014 年 7 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日までに当院にて経皮的シャント拡張術を行った 2039 症例

【情報の利用目的及び利用方法】

電子カルテにてデータを収集し、薬剤溶出性バルーンの使い分けを検討します。

【調査項目】

観察項目

①経皮的シャント拡張術時の患者背景(既往歴・投薬歴・身長・体重・症状・ADL の状態・血液検査所見)

②治療前のエコー評価（狭窄形態の確認）

評価項目

治療介入後の再狭窄、閉塞、死亡イベント

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【調査対象期間】

2014 年 7 月 1 日から 2022 年 6 月 30 日まで

【利用する者の範囲】

関西労災病院 腎臓内科 末光浩太郎

【試料・情報の管理について責任を有する者】

関西労災病院 腎臓内科 末光浩太郎

【研究期間】

実施許可日から 2024 年 12 月 31 日（調査状況により調査期間を延長する可能性があります）

【研究代表者】【研究事務局】【当院の研究責任者】

末光 浩太郎

関西労災病院 腎臓内科

〒660-8511 兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69

TEL: 06-6416-1221（代表）

FAX: 06-6419-1870（代表）

E-mail : suemitsu0711@gmail.com